

平和紙業

新商品説明会を開催

コルクシートやパール紙

(東京通信) 平和紙業は十一月二十七日、九月以降販売を開始した新商品説明会を行い、業界関係者が参加した。営業統括本部全社販売推進部が三種の商品について説明した。

一種類目は九月発売の「キュリアススキン」。二〇〇七年に欧州で販売をスタート。その後色数を増やし、北米やアジアで人気の出ている、アルジヨウイギンス クリエイティブーパー社の製品。寸法は七〇〇ミリ×一〇〇〇ミリ、坪量一三五、二七〇、三八〇等の三種。色は一六種類でオフセット印刷に対応している。濃密かつ高級感のある色で人の肌に触れるような手触りが、ヨーロッパの雰囲気を感じている高級紙。箔押しなどで個性を高めることもできる。

二種類目は十月発売のコルクシート。紙流通が扱つことで、常識で考えられない用途を期待。寸法は九一五ミリ×六一〇ミリ、厚み一、二、三ミリの三種。色はナチュラルカラー一色。これまでは厚み一ミを販売していたが供給先が圧搾コルク・天然コルク製品の販売を止めたため、東亜コルク(株)から供給を受け新たに二、三ミを加えた。

三種類目はリンテック製のグリストアー。片面パール紙で寸法は一〇九一ミリ×七八八ミリ、坪量八五等。色は一一種類。貼り箱向けの用紙に薄物パールが少なくことから商品化。付加価値の創造と高級感演出の製品。淡いパール調五色は穏やかな色味で優しさを演出、濃色は個性的で重厚な雰囲気。貼り箱以外にも表紙周りや帯、さらに封筒やばち袋などに高級感を付加できる。

協立電機、金属異物検査装置で業務提携

アドバンス社の総販売代理店に

(静岡通信) 協立電機はこのほど、金属異物検査装置のアドバンスフードテック(株)(愛知県豊橋市西幸町浜池三三三一九、鈴木周一社長、資本金三、五九〇万円)と業務提携した。協立電機は製造業を中心にインテリジェントFASシステム提案を展開し、特に食品業界や紙・フィルム業界で高いシェアを持つ。一方のアドバンス社は、食品加工ラインや工業用製品製造ラインで金属製の異物混入などを検査する高感度磁性金属検査装置を開発・設計・製造している。特に微細金属異物を検出するセンサ部の開発に強みを持っている。

協立電機はアドバンス社が製造する金属異物検査機の総販売代理店となり販売体制を強化する。提携により両社の強みを生かしたシナジー効果を發揮。食品分野やフィルム、紙加工製品向けに販売を拡大していく。

新興エンジニア受注好調

(静岡通信) 紙・パルプ機械設計製作、メンテナンスの新興エンジニア(富士市石坂九五、小野秀樹社長)は年末年始を迎え、市内の製紙会社からの受注好調で抄紙機駆動部の改造、ドクター装置更新工事などが控えている。このほかドクター装置・斤量弁遠隔装置各数台を受注済み。事業を継承したフジモトポルコン製シンタープレス・タワーレーキの整備依頼・問い合わせも多い。

古紙センター静岡が  
信越・北陸研修

◇：(静岡通信) 古紙再生促進センター静岡地区委員会(音羽徹委員長)は先ごろ、信越・北陸地区二泊三日の研修旅行を行った。活性化事業の一環で一九人が参加した。他地区の製紙工場を見学、リサイクルのさらなる意識向上を図り、古紙回収活性化事業を推進するための研修。

◇：一日目は王子マテリア松本工場を訪れた。高橋一光工場長から生産状況・環境への配慮の取り組みなどの説明を受けた後、5号ライナーマシンなどを視察した。二日目は中越パルプ工業高岡工場二塚製造所を視察。酒井勉生産本部副本部長兼二塚製造部長から生産状況・環境活動における地域社会への貢献活動の取り組みなどについて説明を受けた。古紙処理工程および2号(新聞巻取紙、出版用紙)3号(新聞巻取紙)マシンなどを見学した(写真)。



人から人へ心を伝える  
ハート紙製品

ハート株式会社